

酒々井町郷土研究会々報

第54号

平成元年10月1日
酒々井町郷土研究会
編集

月待塔

会田 秀雄

私達の身近な信仰である石塔類の中の「月待塔」について書いてみたいと思います。月待塔は、特定の月齢の夜に部落の人々が集って月待の行事を行う講中で、供養のしるしに造立した塔です。七夜塔をはじめ十三夜塔、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十六夜塔など文字塔がほとんどですが、像を浮彫にして右側に〇〇夜塔とか〇〇夜待塔と彫ったものも少々あります。又、月待塔の二十三夜塔は全国的に分布しており、他の月待塔は各地に多かれ少なかれ点在しているが、その中でも比較的多く見られるものは十六夜塔、十八、十九、二十二、二十三、二十六夜塔と思われるです。未だ見た

事もない四十八夜塔と刻まれているのがあるようですが、これは明らかに四十八夜念仏塔で、鎌倉時代の末期から石像仏にみられるように念仏塔にふくまれるのが妥当であると思われる。又、三日月待は三日の月に礼拝



祈願して、七夜待は十七日夜から二十三日夜までの七連夜にわたり月待ちをする習俗です。したがって三日月待と七夜待の塔は、月待塔にふくめて考えて良いと思います。月待塔と念仏塔との関連はきわめて密接であり、主体を特定の日におくか、その夜の念仏におくかで、どちらにも所属させられます。なお文字で十九夜塔とか二十二夜塔と刻まれているものは、はっきりと分ける事が出来るが、たゞ単に

月待塔と刻んであるものは二十三夜塔と考えて良いと思います。要するにこの月待の意とするところは江戸時代盛んになった月の出を祭る信仰といわれ、そのほとんどが女人によって信仰されました。特に陰暦正月と七月の月待は盛んで、二十六夜の月のとき阿弥陀、観音、勢至、三尊のお姿が現れ、これを拝めば幸せに恵まれるといわれております。又、乙女がこの夜秘かに念じて鏡を覗くと未来の夫の姿を見る事が出来るという口マン物語から現実には子宮、安産に至るまで女性にまつわる信仰が多くあります。又、月待塔の像形が少ないのは、民間信仰の月待本尊としての確定が、地方や指導仏家によりまちまちに分布したためでしょう。参考までに月待塔の本尊は、

- 十三夜塔(虚空蔵)
- 十五夜塔(大日如来・聖観音)
- 十六夜塔(大日如来・阿弥陀如来)
- 十七夜塔(千手観音・勢至菩薩)
- 十八夜塔(聖観音)
- 十九夜塔(馬頭観音)
- 二十夜塔(十一面観音)
- 二十一夜塔(准胝観音)

二十二夜塔(如意輪観音)
二十三夜塔(勢至菩薩)
二十六夜塔(愛染明王)
なお文中に七夜塔とあるのは、僧侶の場合は十七日から二十三日の間連続して七夜待が行われたようですが、民間信仰の場合には、七日間毎夜別の本尊を拝するのには容易なことではなく、したがって七夜待を七日間行う事は少なく、この内の一夜を選んで行ったので十八夜待となり、或は十九夜待となったのでしよう。この塔は造立が少なく、私もお目にかかりたいと思っております。

講演会好評を博す

八月二十日実施された郷土史講座は、演題「本庄倉城とその居館群」について、高橋三男先生が講演され、聴講者六十三名、表現豊かに分かり易い講義にすっかり魅了され、存じ一日の本庄倉城やその周辺に思いを馳せ、薄心地の一時を過ぎました。現在も残る歴史的遺跡を大事に次の世代に伝えていきたいものとして、めくくられました。次回の講演会(詳細は4に記載)にも、参加の程お待ちしております。



雑感

宮本博司

嘗って東京通いをしていたころ、相模さん(前郷土研究会会長)から「こんな会があり、みなさん頑張っています。どうですか。」とガリ版刷りの会報を頂戴し、そのときは「退職ならお願ひします。」と別れました。...

そこで、三十有余年の空白をどうする。ため研究会に入会したが、会員とは名ばかりであった。当初は野草の会、県内史跡見学会には可能な限り参加することにした。...

と教えられたことがあった。日本地名研究所の長谷川先生は「地名がひ弱な文明の構築物ではなく、むしろ原始的な生命力を持った存在であることが次第に理解されてきたようである。」と地名の意味価値が重視されてきたことを述べられていた。...

愛はひろく

京須善太郎

ことを喜んでいる今日このころである。句に凝って蠅も殺めぬわが身かな。ゴキブリよ早く逃げなと叩く真似。セロの名手エマニエル・ホイヤマンさんが来朝された当時自邸に招待された徳川公爵は、何分大事なセロをお預りして夜もろくに眠れず、何度も見回れたそうです。...



会計報告

Table with financial data: 7月18日・21日 千葉方面見学会 参加者数 75名 収入 会費 75 x 1,000円 75,000 支出 名簿コピー代 453 弁当代 34,895 バス 2回 20,600 貝塚入場料 16 x 60円 960 計 56,908

ご入会歓迎します。入会ご希望の方は左の会長宅にご連絡下さい。 会田香雄 0434-1961-4861

郷土研日誌 (7月~9月) Table with columns: 月日, 内容, 参加人数. Includes events like 名勝探訪, 文化財愛護, 史談会, etc.

残金 18,092円 郷土研へ納入

県内見学会に参加して

亀井 香久乃

梅雨の名残りと思えるような少しは... 郷土研県内見学会は願ったりの学習日となった。

先ず、広大な規模の中に建てられた建物は外観は威容だが、入館して目に受ける内装の美的感覚は流石と感ぜられた。公的建造物にありがちな、従来の堅固のみに重点を置き、無味乾燥とした建物ではなく、現代にマッチさせた意匠の程が観る人の心にやさしく伝わる。

いたいた茨の冒頭に、房総の自然誌とあり、第一展示場の地学に始まり、海洋性の生物、植物の分類、小動物展示室、体験学習室、房総の歴史、どこを見ても房総を知りたいと願う人びとにとって貴重な資料ばかりである。二時間の見学はとも足りなく思えた。

昼食後、生態園を十分ばかり見て廻った。開館後また数ヶ月に満たないため、十分な観察はできなかった。海洋性植物育生のための浜辺に模した砂地には、何種類かの記名札が立てられていた。完成には十年近くかかるとの係員のお話があった。

次に都市緑化植物園に行った。入口近く

の斜面のクロマンは、五年程前に訪れた時植えたばかりの幼苗であったが、現在、松特有の樹形になっていた。時の流れの速さをそこにも見た。屋内にムラサキ草が鉢植えであった。

むらさきのひとつもとゆえに、武蔵野の草はみなから あわれとぞみる。

古歌に詠まれていて有名な此の草の根は、昔宮中也將軍家のみが用いる紫色の染料としたそう。わが家でも鉢植えて育てたことがあったが、鮮やかな紫根は鉢の内側を染めて、如実にそれを物語っていた。

さて、千葉寺に到着し山門を潜ると何店かの出店があり、子供連れの人びとで僅かながら賑わっていた。境内にある滝蔵神社の夏祭り



みみふくやうに つぎつぎに お仲間をいそぐが ながいお仲間をいそぐが どうぞ

ある。とおく、推古の暮らしばかりに暇を閉じる。やがて促されてバスへ。帰りのバスは以外に速く走り、定刻に到着した。今日出会えた数々のことさらに感謝しつつ、家路へ急いだ。

むらさきの

ひとつもとゆえに

花岡 公子

ひよんなごとから方葉植物園の見学に練り出したのは六月のことでした。市川市郊外にオープンしたばかりの県内初の植物園は、四年の歳月と四億円余りをかけ、万葉集に登場する植物のうち百五十五種類を集めて作られたものです。園囃子専門員の水谷武夫さんは佐倉歌人会の主宰者

でもめる歌人で、かつては酒々井小学校で教鞭をとられていた由。植物には、簡単な解説とその植物を詠った歌のプレートがつけられていました。先生の説明はさらに詳しく、万葉の昔、人々が野の草木にどんな想いを寄せていたかなど、歌を通してお話して下さりました。

園中央に続く散策路には萩のトンネル。紫色の小花が可憐でした。もっとも「この萩は園芸種です」

とは先生の打明け話。しもつけ草のやさしい色とかわらわでしこの鮮やかなピンクの濃淡がとても印象的でした。中でも園「自慢の植物は支那集にも「武蔵野の草はみなからあわれとぞみる」と詠われた一穂のむらさき草。これはかりは別園の鉢に丹念に植えられ、白い小さな花を陽に向けていました。「手に入りにくい植物もいろいろ、紅花は山形から種を取り寄せたものがうまく育ったようです」と、苦学話なども伺ってみると、ふたん何気なく見やっていた野の草花がたまらなくいとおしく思われたのです。

「あかむすす紫野行き標野行き野守は見ずや君が袖振る」と額田王が大海人皇子の呼びかけに答えられた歌は、少女の昔かう妙に心をそそられていたのに、実際に見るあかねは何の変哲もない緑の葉を地にはわせて、百年の恋が一度にほんでしまったような思いでした。それでも万葉集ゆかりの植物を改めて教えられ、見直してみると感激はそれなりのものでした。「季節を違えれば異なる花のかおにめぐり会えますよ」との先生の言葉に、再訪を約して園を出れば、梅雨空の雲間からまぶしい太陽が顔をのぞかせはじめていました。



あかね

郷土研行事業案内

平成元年10月~12月

	10月	11月	12月
史談会	14日(土) 午後1時30分(中央公民館) 「古今佐倉真佐子」を読む会	18日(土) 午後1時 (現地学習) 「古今佐倉真佐子」を読む会 (雨天は室内) 中央公民館集合	9日(土) 午後1時30分(中央公民館) 「古今佐倉真佐子」を読む会
名勝探訪 野草の会	6日(金) 野草の会 市川万葉植物園を見学 (町バス利用) ※ 詳細は下段に別記	8日(水) 午前8時20分(京成酒々井駅) 佐倉道を歩く(17) 酒々井-京成栗根-長作-長胤寺(夫婦梅) -武石-真蔵院三合寺(青石板碑)- 幕張駅-検見川-八坂神社-稲毛- 浅間神社-稲毛-酒々井(雨天中止)	13日(水) 午前8時20分(京成酒々井駅) 佐倉道を歩く(18) 酒々井-勝田台駅-(バス)米本神社下 -米本山長福寺-村上-鴨鴛寺- 大和田-明治天皇記念碑-長妙寺- 大和田-酒々井(雨天中止)
文化講演会	11月11日(土) 午後1時30分 場所 中央公民館・視聴覚室 講師 国立歴史民俗博物館教授 福田豊彦先生 演題 「千葉氏の成立と印旛地方」 多数の御来聴をお待ちしております。		
※ 野草の会	10月6日(金) 午前8時30分 中央公民館出発 コース (雨天実施) ・定員—35名 ・会費—1,300円(弁当・お茶付き) ・申込受付—10月3日午前9時~午前12時 ・受付先—会田秀雄宅(電話で受付可) ・電話番号—(96-4861)定員には次第締切ります。 ・会費は当日徴収します。		
一泊見学会	10月24日(火)~10月25日(水) 妙義山・磯部温泉方面 ・定員—50名 ・会費—27,000円 ・申込受付—10月11日(水)9時~11時 ・受付場所—公民館ロビー ・キャンセル—10月19日まで ・連絡先—会田秀雄宅(96-4861) ・乗車場所及び時間 伊藤大松食堂前 6:40 農協ガソリンスタンド裏 6:45 日栄クリーニング前 6:50 中央公民館 6:55 (ホテル磯部カーテン TEL 0273-85-6311)		
県内見学会	12月6日(水) A班(定員35名) 8日(金) B班() コース ・会費—1,500円(弁当・お茶付き) ・申込受付—11月29日(水)9時~11時 ・受付場所—中央公民館ロビー ・出発時間—中央公民館 8時30分 ・キャンセル—旅行実施日5時まで会田宅に連絡下さい コース 酒々井(8:30) - 航空科学博物館 - 取香牧捕込 - 芝山仁王尊 - はにわ博物館・芝山公園(昼食) - 殿塚・姫塚 - 酒々井着(17:00頃)		

編集後記

▼モノレールに乗りまーた▲
佐倉道を歩くNo.16は、九月六日好天に恵まれて参加者二十八名、モノレールに乗れることになりさうさながらの出発、快適な乗りこみちの皆の顔もほころび、足取り軽く大目寺へ。大目寺では千葉家累代の墓といわれる三五基の五輪塔と二基の多層塔を見学、次に来迎寺で千葉氏胤・満胤らの鎌倉後半から室町初期の五輪塔を見学、次に宗胤寺へ、宗胤の墓といわれる五輪塔を見学、競輪場横を通り忠霊塔・護国神社に足を運ぶ。当日、競輪開催中で、人々車の往来激しく、競輪場内一自見たいなあの欲心をおさえ千葉公園に歩け歩け。公園の展望台で涼風を喜び、大賀はすの池にたつた一つ、遅れ咲きの薔が美しいピンクの色を見せられた、千葉駅地下で昼食ととり、楽しかった佐倉道の一日が終わりました。

老いも若きも皆が繰り出した夏祭り、夜空にあがる花火の華々、あつというまにそれぞれの夏も終わり、空の色、雲の流れ、風の動きもすっかり秋になりました。
夏バテの体調もどうやら回復し、元氣をとり戻したところ、今年最後の会報五十四号をお届けします。十月から十二月にかけての盛り沢山の行事、なかでも一泊見学会は、昔の城下町の面影がよく残る小幡の町並と紅葉した妙義山を堪能するほど見ていただけます。多数の御参加をお願いいたします。



見学会案内

野草の会 10/6(金)

十月 今回は地理の関係もあつて町バスで実施します。市川万葉植物園は最近にオープンしたばかりです。小じんまりした園内に納まっており、それぞれに名札と万葉の歌が添えられています。歌を口ずさみ、古代人の心を偲ぶのも興の深いものです。

大町自然観察園は細長い谷津を尾瀬へ行った感じで縦断します。その終末が動植物園です。市川動植物園は小動物が多く殊に幾種類もの珍しい小猿が観察できます。

名勝探訪

No.17(水) No.18(水) No.12/13(水)

佐倉道を歩く

十一月八日(水) 京成実籾駅で下車、長作の長胤寺の夫婦梅を見て、武石の真蔵院の青石板碑を訪ねます。この板碑は県下板碑中の最大最優秀として県指定文化財となっています。

次は幕張から検見川に至り、

八坂神社に参拝、さらに稲毛に至り稲毛浅間神社を参拝します。

十二月十三日(水)

京成勝田台駅に至りバスで、米本の長福寺を訪れ、米本城主村上綱清の五輪塔、青石板碑、戒壇石を見学、またバスで村上の「おしどり寺」と正覚院の県指定木造釈迦如来立像、釈迦堂、宝篋印塔を見学したのち徒歩で大和田の明治天皇遺跡、長妙寺の八百屋お七の墓を訪れます。

県内見学会 12/6(水) 12/8(金)

芝山方面

航空科学博物館(芝山町岩山)

今年八月オープン。航空に関することを楽しくみながら、だれでもが理解でき、専門的な知識を得られるよう工夫展示され、展示物を動かすこともできる。

取香牧捕込(成田市南三里塚)

佐倉七牧の一つで、替子人足が牧士や獅子廻しの指揮をうけて、広い牧場から捕込へ野馬を追いついて、野馬を捕らせた場所。

芝山仁王尊(芝山町芝山)

天台宗 観音教寺。天台宗の古刹、三重塔(県文化)は江戸期の建築で、塔婆建築の少ない千葉県では貴重なものである。

はにわ博物館(芝山町芝山)

殿塚・姫塚からの出土品を主に展示している博物館。

殿塚・姫塚(芝山町上辺田)

殿塚は長さ八メートル、高さ一〇メートルで二重の堀をもち、姫塚も長さ五メートル、高さ六メートルで、一重の堀をもち六世紀築造の前方後円墳。殿塚は後円部に甍道と玄室をもち多数の副葬品が出土した。姫塚は前方部に埋葬施設があり、副葬品には殿塚にみられないみゆびやわがが加味され、また北側墳丘には多数の人物や動物の埴輪(県文化)がめぐらされていて、五メートルにも及び、葬送行列の場面を物語るものではないかとみられている。

一泊見学会 10/24(水) 10/25(木)

妙義山・磯部温泉方面

小幡城跡と城下町(群馬県甘楽町)

元和元年(一六一五)織田信長の次男信雄が小幡二万石に封ぜられ、三代信昌が小幡に陣屋を築いた。四代信久は農政を重んじ雄川の水を利用して土地開拓・池塘の増設などすると共に城下町を整えて善政を施した。用水路は今も昔のままに清らかに流れ、町の家並と共に城下町の姿を偲ばせる。

崇福寺(甘楽町)

小幡の南郊にあり、小幡藩主織田信雄以下七代信富までの五輪塔が並んでいる。臨済宗の古刹。

富岡製糸場(富岡市)

明治五年、維新政府の経済的基礎を確立するため、官営の模範工場として建設された我が国初の製糸工場。

現在も建物は大部分往時のまま。

貫前神社(富岡市)

国指定重文。大和時代の安閑天皇(五三〇四)御代の創建と伝える延喜式内社で上野国一宮。本殿拝殿・楼門共に寛永十二年(一六三五)將軍家光の再建に当たったもので、江戸初期の精巧華麗な建造で、千年の老木に囲まれた神域は壮麗である。

磯部温泉(安中市)

磯部温泉は碓氷川のほとりにあり天明三年(一七三三)の浅間山大爆発により湧出したと云う。胃腸の温泉として知られている。炭酸泉。

妙義山(甘楽郡妙義町)

妙義山は大古火山であったが、頻りに爆発作用や長年月に亘る風化・水蝕により山体が破壊され、岩盤の最も堅固な火口部分だけが残って今日の山容を見せているものだとされている。

妙義神社(妙義町)

創建は宣化天皇二年(五三七)と伝えられる延喜式内の古社。江戸時代に建てられた社殿は豪華な権現造り、みごとな彫刻が施され思わずみとれる。

中ノ岳神社(甘楽郡下仁田町)

大和時代の欽明天皇(五三九〇五二)の御代、妙形氏の創建と伝えられる古社。中御門天皇(一七〇九一七三四)より「十六菊」紋に付の幕、提灯を賜わったという格式高い由緒をもつ神社。